

がんの出前授業

2023-05-17 (水) 17:15

がんに対する正しい知識と理解を深めてもらい命の大切さを知ってもらおうと、小学生を対象にしたがん教育の出前授業が、今日、橋本市で行われました。

この授業は、橋本市と市の教育委員会、それに医療法人南労会紀和病院がタイアップして、平成27年から市内の小学校で実施しているもので、今日、橋本市立高野口小学校で行われた授業には、6年生の児童26人と保護者が参加しました。授業では紀和病院の梅村定司医師が、正しい生活習慣が、がんの予防に繋がることや、検診によるがんの早期発見の重要性を話し、大切な人を守るためにがん検診に行くよう家族に勧めて欲しいと子供たちに訴えかけました。また子供たちは、がんの予防に役立つ食べ物が、意外にも「にんにく」だと知って驚いていたほか、「がんにならないために出来ることは何だろう」というテーマでグループで話し合い、「タバコを吸わない、お酒を飲み過ぎない」などと真剣に意見を出し合っていました。がん教育の出前授業は、今年度も、橋本市内の小学校ほぼ全校で実施されるということです。(テレビ和歌山ホームページより転載)

テレビ和歌山・毎日新聞でも取り上げられました！



児童たちの話し合いを見守る梅村さん(奥)
 ー橋本市高野口町名倉の市立高野口小学校で

いのちの大切さ訴え

医師が小学生へがん授業

橋本 がんを通して命の大切さを知ってもらおうと、「小学生へのがん教育」が17日、橋本市立高野口小学校で始まり、6年生26人と保護者6人が参加した。市と市教委、市内の医療法人南労会紀和病院が連携し、子供の頃からがんについて正しい知識を身に付けるとともに、親世代にも伝えてもらうのが狙い。2024年1月まで市内13校で順次行う。

紀和病院・紀和プレスト(乳腺)センター長の梅村定司さんが講師を務め「がんは早く

見つけると9割近くの人が治る。正しく知って、正しく恐れることが大切」と語りかけた。クイズを交え、がんの種類や原因などについて説明し、早期発見につなげるために検診や受診が重要だと強調した。

その後、梅村さんが「がんにならないためにできることは何だろう」と問いかけると、児童たちから「ストレスをためない」「日焼け予防をする」といった意見が出された。参加した児童は「がんになった人のために、自分にもできることがたくさんあることを知った」と話した。

この授業は15年度から始まり、20、21年度は新型コロナウイルスの影響で中止したが、22年度に再開した。

【藤原弘】

